

●書評

◆「港湾」購読者に有用と思われる図書については編集委員会に諮って担当者による書評を折に触れ掲載します。
◆当欄は書籍広告ではありません。詳細は出版元に直接照会ください。

空港工学 AIRPORT ENGINEERING

(財)港湾空港建設技術サービスセンター／編



●発行：(財)港湾空港建設技術サービスセンター

●ISBN：978-4-9905422-0-7

●価格：19,048円＋税

私は30年以上運輸関係の社会資本関係の仕事に携わってきました。どの交通インフラが一番好きですかと聞かれれば、私は躊躇なく空港と答えるでしょう。空港は、ある意味、死と隣り合わせの危機感を共有しつつ、多種多様なシステムが有機的に組み合わせられ、これらが一体として、凛として機能しているまさしく一つの生命体のようなものです。人や物の動きまでが躍動感にあふれ、機能的で美しく見える気がします。特に、朝一の始発便が飛び立つ際の空港全体に張りつめた緊張感がなんとも言えません。

しかし、このような空港の特性全般を扱った著作はこれまでにないと思います。空港に関する技術や計画を取り扱ったものはあるものの、内容が特定の分野に偏っていたり、その内容が浅く食いつりなかつたりで、体系化したものは皆無といってよいと思います。

本書は、まさしく空港の全貌を現すものであり、空港を構成する土木施設、建築施設、電気・機械施設、無線施設等について、それぞれについて、その

基本となる基準から実際の施設等での対応までまとめています。往々にしてこの種のハンドブックは網羅的、機械的なものになりがちなのが常ですが、本書は、活字の大きさや図表の配置も適切で、執筆、編集を担当した我が国の第一線の空港技術者の思いがこめられています。末端まで血の通った最新の情報で構成されており、いろいろな現場で役立つ、まさしく労作、秀作と言えるものです。

本書が発刊された昨年10月は、羽田空港の4本目の滑走路が供用された空港関係者にとってエポックメイキングであると思います。本書の索引は、わかりやすく充実したものになっており、是非とも、空港関係者は、本書を必携の書として活用していただき、自分なりの新たな知識やノウハウを書き込み、各自のオンリーワンのハンドブックにしたいと思っています。さらには、これらを蓄積し、「空港工学」のフォローアップや再刊を心から期待しています。(森川雅行)